

# 2020年8月期 第1四半期業績 および通期見通し

**岡崎 健**

---

株式会社ファーストリテイリング  
取締役 グループ上席執行役員 CFO

1

CFOの岡崎です。  
私から、2020年8月期第1四半期の業績、および  
通期の業績見通しについてご説明いたします。

I. 第1四半期決算概要	P3	～	P19
II. 2020年8月期 通期業績予想	P20	～	P22
III. ご参考資料	P23	～	P26

【業績開示について】

- ・弊社では、国際会計基準(IFRS)を適用しております。
- ・事業利益は、売上収益から売上原価、販管費を控除して算出しております。
- ・国内ユニクロの業績(売上収益を除く)にはグループ間取引が含まれております。
- ・各セグメントの構成は、以下のとおりです。
  - 国内ユニクロ事業：日本で展開するユニクロ事業が含まれています。
  - 海外ユニクロ事業：海外で展開するユニクロ事業が含まれています。
  - ジーユー事業：国内・海外で展開するジーユー事業が含まれています。
  - グローバルブランド事業：セオリー事業、プラステ事業、コントワー・デ・コトニエ事業、プリンセス タム・タム事業、JBrand事業が含まれています。
- ・連結業績には上記の他、ファーストリテイリングの業績、連結調整が含まれております。

【将来予測に関するご注意】

本資料に掲載されている業績予想、計画、目標数値などのうち、歴史的事実でないものは、作成時点で入手可能な情報に基づき作成した将来情報です。実際の業績は、経済環境、市場の需要・価格競争に対する対応、為替などの変動により、この業績予想、計画、目標数値と大きく異なる場合があります。

## 【連結】2020年8月期 第1四半期実績

減収減益、計画を大きく下回る  
韓国、香港の下振れ、世界的に気温が高かった影響

	2019年8月期	2020年8月期		単位: 億円
	第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比	
売上収益 (売上比)	6,444 100.0%	6,234 100.0%	▲3.3%	
売上総利益 (売上比)	3,248 50.4%	3,129 50.2%	▲3.7% ▲0.2p	
販管費 (売上比)	2,215 34.4%	2,240 35.9%	+1.2% +1.5p	
事業利益 (売上比)	1,032 16.0%	888 14.2%	▲14.0% ▲1.8p	
その他収益・費用 (売上比)	13 0.2%	28 0.5%	+108.8% +0.3p	
営業利益 (売上比)	1,046 16.2%	916 14.7%	▲12.4% ▲1.5p	
金融収益・費用 (売上比)	64 1.0%	103 1.7%	+60.8% +0.7p	
税引前四半期利益 (売上比)	1,110 17.2%	1,020 16.4%	▲8.2% ▲0.8p	
親会社の所有者に 帰属する四半期利益 (売上比)	734 11.4%	709 11.4%	▲3.5%	-

※2020年8月期よりIFRS16号を適用したことで、事業利益で9億円、営業利益で12億円の押し上げ

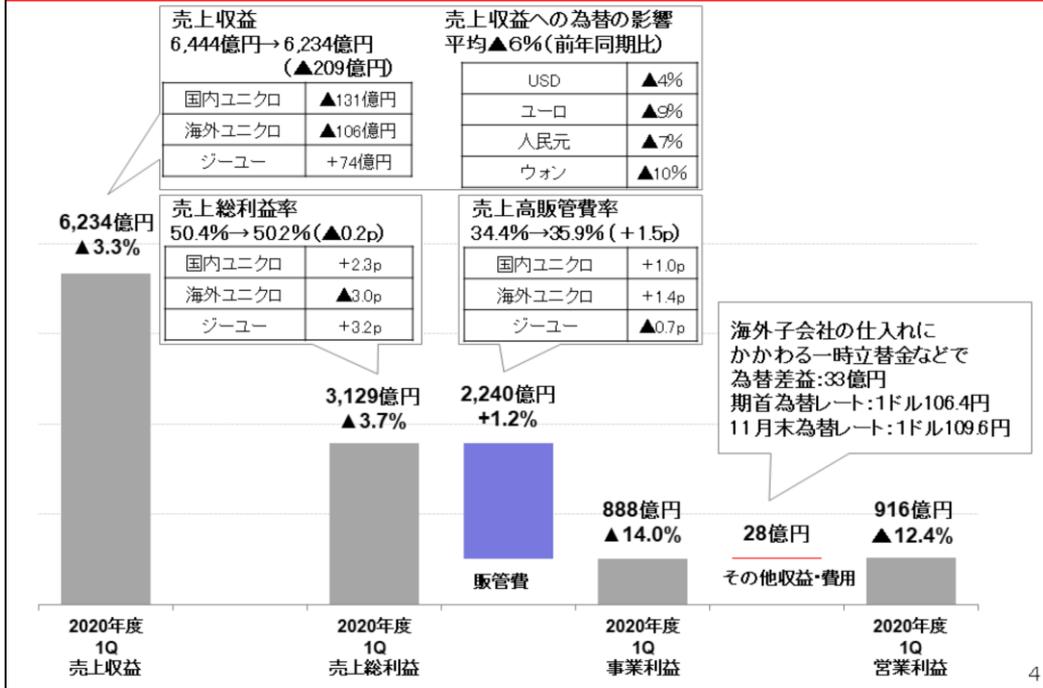
3

2020年8月期 第1四半期の連結業績ですが、  
売上収益は6,234億円、前年同期比3.3%減、  
事業そのものの収益を示す事業利益は888億円、同14.0%減、  
営業利益は916億円、同12.4%減、  
税引前四半期利益は1,020億円、同8.2%減、  
親会社の所有者に帰属する四半期利益は709億円、同3.5%減となりました。

今期よりIFRS16号を適用したことにより、事業利益は9億円、  
営業利益は12億円の押し上げがありました。

連結では計画に対して、大きく下回る結果となりました。  
これは、韓国、香港の業績が計画を大きく下回り、大幅減益となったこと、  
世界的に気温が高かった影響で、国内ユニクロ事業、グローバルブランド事業も  
計画に対して下回ったことによります。

# 【連結】第1四半期 営業利益



まず、連結の損益計算書のポイントについて、ご説明いたします。

連結の売上収益は6,234億円、前年同期比209億円の減収となりました。これは、ジーユー事業が74億円の増収となった一方で、国内ユニクロ事業が131億円の減収、海外ユニクロ事業が106億円の減収となったことによります。

売上総利益率は50.2%と、前年同期比で0.2ポイント低下いたしました。これは、ジーユー事業で3.2ポイント、国内ユニクロ事業で2.3ポイント改善した一方で、海外ユニクロ事業の売上総利益率が3.0ポイント低下したことによります。

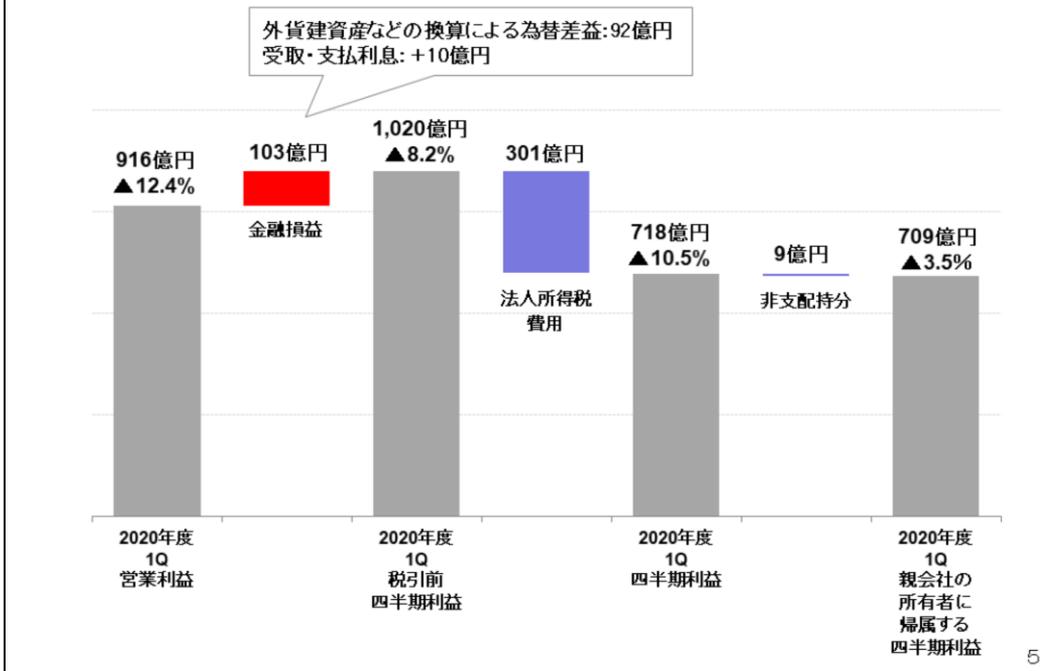
売上高販管费率は35.9%と、同1.5ポイント上昇いたしました。これは、国内ユニクロ事業、海外ユニクロ事業で販管費比率が上昇したためです。

事業利益は888億円と、同14.0%の減益となりました。

その他収益・費用の合計は28億円のプラスとなっております。これは主に、海外子会社の仕入れにかかわる一時立替金などに、為替差益が33億円発生したことによります。

これらの結果、営業利益は916億円、同12.4%の減益となりました。

## 【連結】第1四半期 親会社の所有者に 帰属する四半期利益



次に、金融損益ですが、ネットで103億円のプラスとなりました。  
これは、外貨建資産などの換算による為替差益を92億円計上したことなどによります。

この結果、税引前四半期利益は1,020億円と同8.2%減、  
親会社の所有者に帰属する四半期利益は709億円、同3.5%減となりました。

## 【セグメント別】第1四半期実績

		2019年8月期	2020年8月期	
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
国内ユニクロ事業	売上収益	2,461	2,330	▲5.3%
	事業利益 (売上比)	379 15.4%	388 16.7%	+2.6% +1.3p
	その他収益・費用	0	▲3	-
	営業利益 (売上比)	379 15.4%	385 16.5%	+1.6% +1.1p
海外ユニクロ事業	売上収益	2,913	2,807	▲3.6%
	事業利益 (売上比)	528 18.1%	382 13.6%	▲27.6% ▲4.5p
	その他収益・費用	▲2	▲4	-
	営業利益 (売上比)	525 18.0%	378 13.5%	▲28.0% ▲4.5p
ジュー事業	売上収益	654	729	+11.4%
	事業利益 (売上比)	86 13.1%	124 17.0%	+44.3% +3.9p
	その他収益・費用	▲0	▲0	-
	営業利益 (売上比)	85 13.1%	123 17.0%	+44.4% +3.9p
グローバルブランド事業	売上収益	407	361	▲11.4%
	事業利益 (売上比)	28 6.9%	19 5.3%	▲32.5% ▲1.6p
	その他収益・費用	▲0	▲0	-
	営業利益 (売上比)	27 6.7%	18 5.2%	▲31.5% ▲1.5p

単位: 億円

注: 国内ユニクロの業績にはグループ間取引が含まれております(売上収益を除く)。

6

セグメント別の業績は、6ページのスライドの通りです。

### 売上収益は減収も、粗利益率の改善で若干の増益

- ・気温が高かった影響で防寒衣料の販売に苦戦、売上収益が減収、計画に対しても下回る
- ・営業利益は、粗利益率が改善、経費が前年よりも削減できたことから、若干の増益。  
ただし、計画に対しては下回る

単位:億円

	2019年8月期 実績	2020年8月期 実績	
	第1四半期	第1四半期	前年同期比
<b>売上収益</b> (売上比)	2,461 100.0%	2,330 100.0%	▲5.3%
<b>売上総利益</b> (売上比)	1,174 47.7%	1,165 50.0%	▲0.8% +2.3p
<b>販管費</b> (売上比)	795 32.3%	776 33.3%	▲2.4% +1.0p
<b>事業利益</b> (売上比)	379 15.4%	388 16.7%	+2.6% +1.3p
<b>その他収益・費用</b> (売上比)	0 0.0%	▲3 -	- -
<b>営業利益</b> (売上比)	379 15.4%	385 16.5%	+1.6% +1.1p

※2020年8月期よりIFRS16号を適用したことで、事業利益で2億円、営業利益で3億円の押し上げ影響

7

まず、国内ユニクロ事業の第1四半期の業績ですが、  
売上収益は2,330億円、前年同期比5.3%減、  
営業利益は385億円、同1.6%増と、減収増益となりました。

第1四半期は、気温が高かった影響で防寒衣料の販売に苦戦したことから、  
売上収益は減収、計画に対しても下回りました。  
営業利益は、粗利益率が改善したことや、経費が前年よりも削減できたことから、  
前年同期比で若干の増益となりました。  
ただし、計画に対しては下回る結果となっております。

## 【国内ユニクロ事業】売上収益の状況

**1Q(9~11月)既存店売上高 ▲4.1%**

- ・既存店売上高が減収となった要因は、気温が高く推移した影響で、秋冬商品の立ち上がりが遅かったこと、防寒衣料の需要が弱かったこと、品番数が増えたことで、打ち出すべき商品の魅力をお客様に十分に伝えきれなかったことによる
- ・カーブパンツ、スフレーションセーター、ハイブリッドダウンなどの新商品、トレンドのスウェット、レギンスなどの好調な商品も多くあったが、ウルトラライトダウン、ヒートテック、カシミヤセーター、メリノセーターなどの冬の防寒衣料が苦戦
- ・Eコマース販売は247億円、同4.1%増、店舗と同様の理由により、伸び率が鈍化
- ・12月も気温が高い日が続いたことで、既存店売上高は5.3%減

既存店 前年同期比	2020年8月期				
	9月	10月	11月	1Q累計	12月
売上高	▲4.2%	▲1.9%	▲5.5%	▲4.1%	▲5.3%
客数	+0.4%	+5.6%	▲3.3%	+0.4%	▲2.2%
客単価	▲4.6%	▲7.1%	▲2.3%	▲4.5%	▲3.1%

8

国内ユニクロ事業の既存店売上高は、前年同期比で4.1%減収となりました。

既存店売上高が減収となった要因は、気温が高く推移した影響で、秋冬商品の立ち上がりが遅かったことに加え、防寒衣料の需要が弱かったこと、品番数が増えたことで、打ち出すべき商品の魅力をお客様に十分に伝えきれなかったことによります。

カーブパンツ、スフレーションセーター、ハイブリッドダウンなどの新商品や、トレンドのスウェット、レギンスなどの好調な商品も多くありましたが、ウルトラライトダウン、ヒートテック、カシミヤセーター、メリノセーターなどの冬の防寒衣料が苦戦しました。

Eコマース販売は247億円、同4.1%増と、店舗と同様の理由により、伸び率が鈍化いたしました。

なお、12月も気温が高い日が続いたことで、既存店売上高は5.3%減となりました。

**売上総利益率は50.0%、前年同期比2.3ポイント改善  
計画に対して若干上回る**

- ・粗利益率が改善したのは、商品仕入の為替レートが円高に転じたため
- ・値引率は、在庫コントロールを強化し、動きの鈍い秋冬商品の値引き販売を早期に実施したことから、前年同期比で若干拡大したものの、計画よりも低い水準

**売上高販管費率は33.3%と、前年同期比1.0ポイント上昇  
金額ベースでは計画通り、前年比で削減**

- ・IFRS16号の適用により、減価償却費は大きく増加した一方で、賃借料が大きく減少
- ・IFRS16号の影響を除くと、経費が金額ベースで前年から減少した項目は、減価償却費、人件費、賃借料
- ・減価償却費は、前期に有明倉庫のマテハンの一部で行った加速償却(減価償却期間の短縮)の影響がなくなったことで、売上比率でも減少
- ・人件費は、RFIDの活用などにより、店舗業務の効率化で減少
- ・物流費は金額ベースでほぼ前年並み。店舗関連の物流費は在庫削減により減少した一方、Eコマース販売の拡大に伴い、物流費は増加。ただし、有明倉庫の自動化により、効率化は進む

次に、売上総利益率ですが、50.0%と、前年同期比2.3ポイント改善いたしました。これは計画に対して若干上回っております。

粗利益率が改善したのは、商品仕入の為替レートが円高に転じたことによります。値引率は、在庫コントロールを強化し、動きの鈍い秋冬商品の値引き販売を早期に実施したことから、前年同期に比べて、若干拡大したものの、計画よりも低い水準となっております。

売上高販管費率は33.3%と、前年同期比1.0ポイント上昇いたしました。ただし、金額ベースでは、計画通り、前年に対し削減できております。

IFRS16号の適用により、減価償却費は大きく増加した一方で、賃借料が大きく減少しております。

IFRS16号の影響を除くと、経費が金額ベースで前年から減少した項目は、減価償却費、人件費、賃借料です。

減価償却費は、前期に有明倉庫のマテハンの一部で行った加速償却の影響がなくなったことで、売上比率でも減少しております。

人件費は、RFIDの活用などにより、店舗業務の効率化を図ることができ、減少しております。

物流費は、金額ベースでほぼ前年並みとなりました。店舗関連の物流費が在庫削減により減少した一方で、Eコマース販売の拡大に伴い、物流費が増加しております。

ただし、有明倉庫の自動化により、一件当たりの物流費は低下しており、効率化が進んでおります。

## 計画を下回り、減収減益 韓国、香港の減益の影響を除くと増収増益

- ・減益の要因は、韓国、香港の営業赤字。現地通貨安で営業利益が約5%の押し下げ
- ・気温が高かった影響で、グレーターチャイナ、北米、欧州は販売が苦戦し、計画を下回る
- ・その他アジア・オセアニア地区は計画通り、大幅な増収増益と順調に事業を拡大
- ・早期の在庫処分を進めた結果、粗利益率は3.0p低下。販管費比率は、売上が計画を下回ったため1.4p上昇も、韓国、香港を除くと販管費比率は改善

	2019年8月期 実績	2020年8月期 実績	
	第1四半期	第1四半期	前年同期比
売上収益 (売上比)	2,913 100.0%	2,807 100.0%	▲3.6%
売上総利益 (売上比)	1,583 54.3%	1,439 51.3%	▲9.1% ▲3.0p
販管費 (売上比)	1,055 36.2%	1,056 37.6%	+0.1% +1.4p
事業利益 (売上比)	528 18.1%	382 13.6%	▲27.6% ▲4.5p
その他収益・費用 (売上比)	▲2 -	▲4 -	-
営業利益 (売上比)	525 18.0%	378 13.5%	▲28.0% ▲4.5p

単位: 億円

※2020年8月期よりIFRS 6号を適用したことで、事業利益で4億円、営業利益で5億円の押し上げ

10

次に、海外ユニクロ事業について、ご説明いたします。

売上収益は2,807億円、前年同期比3.6%減、営業利益は378億円、同28.0%減と、計画を下回り、減収減益の結果となりました。

減益となった要因は、韓国、香港が計画を下回り、営業利益が赤字となったこと、現地通貨安の影響で、営業利益が約5%押し下げられたことによります。

なお、韓国、香港の減益の影響を除いた海外ユニクロ事業は、増収増益となっております。

地域別では、世界的に気温が高かった影響により、グレーターチャイナ、北米、欧州は販売が苦戦し、計画を下回る業績となりました。

一方で、東南アジア、オーストラリア、インドを含む、その他アジア・オセアニア地区は計画通り、大幅な増収増益と順調に事業を拡大しています。

各国・各エリアで早期の在庫処分を進めた結果、粗利益率は3.0ポイント低下しました。販管費比率は、売上が計画を下回ったことで、1.4ポイント上昇しましたが、韓国、香港を除くと販管費比率は改善しました。

### グレーターチャイナ: 増収減益 ただし、為替の影響を除くと増収増益

- ・減益の要因は、元が円に対して約7%安、香港がデモの影響で減益、気温が高く推移したことで、防寒衣料の販売が苦戦。計画に対しても若干下回る
- ・粗利益率▲2.3ポイント: 香港で粗利益率が低下。中国大陸、台湾でも早期に在庫処分
- ・販管費比率▲0.2ポイント: 家賃比率が改善。各エリアでRFIDを導入し、店舗業務が効率化

#### 【中国大陸】増収増益

- ・スウェット、フリース、フランネルといった秋物商品が好調、既存店売上高は増収
- ・Eコマース販売は、W11の売上がアパレルで4年連続の1位と好調を維持、約3割の増収
- ・1Qは気温が高く推移し、防寒衣料の販売に苦戦、早期に在庫処分を実施
- ・営業利益は、計画に対して若干下回る

#### 【香港】営業利益は計画を下回り、若干の赤字

- ・デモの影響により、既存店売上高は減収
- ・値引販売を強化したことから、粗利益率は低下

#### 【台湾】増収、営業利益は前年並み

- ・11月のW11商戦と感謝祭の販売が好調で、既存店売上高は増収
- ・9月と10月に気温が高かったことから、早期に在庫処分を実施
- ・営業利益は計画に対して若干下回る

次に、各エリアの業績トレンドについてご説明いたします。

グレーターチャイナは、増収減益となりました。ただし、為替の影響を除くと増収増益となっております。

減益となった要因は、元の平均為替レートが円に対して約7%安となったこと、香港がデモの影響で減益となったこと、気温が高く推移したことで防寒衣料の販売が苦戦したことによります。これは、計画に対しても若干下回る水準です。

グレーターチャイナの粗利益率は前年同期比で2.3ポイント低下しました。これは主に香港で粗利益率が低下したことに加え、中国大陸、台湾でも早期に在庫処分を実施したことによります。一方、販管費比率は同0.2ポイント改善しました。これは家賃比率が改善したことに加え、各エリアでRFIDを導入したことにより、店舗業務が効率化されたことによります。

中国大陸は、増収増益となりました。

スウェット、フリース、フランネルといった秋物商品が好調で、既存店売上高は増収となりました。また、Eコマース販売も、W11の売上収益がアパレルで4年連続の1位となるなど、好調を維持しており、約3割の増収を達成しました。

ただし、第1四半期は気温が高く推移したことから、防寒衣料の販売に苦戦し、早期に在庫処分を実施したことで、営業利益は計画に対して若干下回っております。

香港はデモの影響により、既存店売上高は減収となりました。値引販売を強化したことから、粗利益率は低下し、営業利益は計画を下回り、若干の赤字となっております。

台湾は、増収、営業利益は前年並みとなりました。

11月のW11商戦と感謝祭の販売が好調だったことにより、既存店売上高は増収となりました。ただし、9月と10月に気温が高かったことから、早期に在庫処分を実施したことで、営業利益は計画に対して若干下回りました。

## 【海外ユニクロ事業】 エリア別(2)

### 韓国：営業利益は計画を大きく下回り、赤字

・7月からの不買運動の影響により、既存店売上高が大幅な減収

### その他アジア・オセアニア地区：計画通り2桁の増収増益

#### 【東南アジア】

- ・特に好調だったエリアは、インドネシア、フィリピン  
既存店売上高は2桁増収、営業利益も大幅な増益
- ・UT、Tシャツ、EZYアンクルパンツ、ジーンズなどの夏物商品が好調。フランネルシャツなどの羽織物、ヒートテックなどの秋冬商品の販売も好調
- ・2019年12月にベトナム1号店をホーチミンに出店

#### 【オーストラリア】

- ・計画通り増収増益

#### 【インド】

- ・2019年10月に1号店をニューデリーに、11月に2号店をデリー郊外に出店し、好調な業績
- ・冬物コア商品のウルトラライトダウン、フリース、ヒートテック、スウェット、フランネルが、現地のお客様から高い支持を得て、計画を上回る好調な販売



ユニクロ ドンコイ店(ベトナム)  
オープン3日間は終日入場制限するなど、  
今までにない大盛況

12

韓国は、7月からの不買運動の影響により、既存店売上高が大幅な減収、営業利益は計画を大きく下回り、赤字となりました。

その他アジア・オセアニア地区の業績は、計画通り2桁の増収増益を達成しました。

特に好調だったエリアは、インドネシア、フィリピンで、既存店売上高が2桁増収、営業利益も大幅な増益となりました。

UT、Tシャツ、EZYアンクルパンツ、ジーンズなどの夏物商品が好調だったことに加え、フランネルシャツなどの羽織物、ヒートテックなどの秋冬商品の販売も好調でした。

なお、2019年12月にベトナム1号店をホーチミンに出店し、オープン3日間は終日入場制限をするなど、今までにない大盛況となりました。

インドは、2019年10月に1号店をニューデリーに、11月に2号店をデリー郊外に出店し、好調な業績となっています。

冬物コア商品のウルトラライトダウン、フリース、ヒートテック、スウェット、フランネルが現地のお客様から高い支持を得ており、計画を上回る好調な販売となっております。

### 北米:カナダが増収増益により、全体でも増収増益

【米国】 計画を下回り、若干の減収減益

- ・暖冬の影響で冬物商品の販売に苦戦し、既存店売上高が若干の減収
- ・ブラックフライデー商戦の開催日が昨年度の11月23日から、今年度は11月29日に変更となり、Eコマース販売の売上収益の一部が12月にずれ込む
- ・利益面では、値引販売を強化したことで、粗利益率が低下、営業利益は若干の減益

【カナダ】新規出店が引き続き好調で、計画通り大幅な増収増益

### 欧州:2桁増収、若干の減益 為替の影響を除くと前年並み

- ・売上収益は2桁増収も、営業利益は計画をやや下回り、若干の減益
- ・既存店売上高は増収、Eコマースの売上も、約3割増収と、好調を維持
- ・為替の影響で原価率が上昇した結果、粗利益率が低下し、若干の減益
- ・欧州の中では、スペイン、オランダ、イタリアの業績が好調。特に2019年9月に初出店したイタリアは、計画を大きく上回る好調な販売



ユニクロコルドゥージオ広場店(イタリア)

次に北米ですが、カナダが増収増益となったことにより、北米全体でも増収増益となりました。

米国は、計画を下回り、若干の減収減益となりました。

減収となった要因は、暖冬の影響により、冬物商品の販売に苦戦し、既存店売上高が若干の減収となったことに加え、ブラックフライデー商戦の開催日が昨年度の11月23日から、今年度は11月29日に変更になったことから、Eコマース販売の売上収益の一部が12月にずれ込んだことによります。

利益面では、値引販売を強化したことで粗利益率が低下した結果、営業利益は若干の減益となりました。

カナダは、新規出店が引き続き好調で、計画通り大幅な増収増益となりました。

欧州は、売上収益は2桁増収となったものの、営業利益は計画をやや下回り、若干の減益となりました。

ただし、為替の影響を除くと、ほぼ前年並みの水準でした。

欧州全体の既存店売上高は増収、Eコマースの売上も、前年同期比で約3割増収と、好調を維持しています。

利益面では、為替の影響で原価率が上昇した結果、粗利益率が低下し、若干の減益となりました。

欧州の中では、近年に進出したスペイン、オランダ、イタリアの業績が好調です。特に2019年9月に初出店したイタリアは、計画を大きく上回る好調な販売となっています。

## 計画通り、大幅な増収増益

- ・気温が高く推移したものの、薄手のアウターや、ニットをTVCMのキャンペーンで打ち出したことが奏功し、既存店売上高は増収
- ・粗利益率が3.2ポイントと大きく改善、販管費比率も0.7ポイント改善し、営業利益は大幅な増益

単位:億円

	2019年8月期 実績	2020年8月期 実績	
	第1四半期	第1四半期	前年同期比
売上収益 (売上比)	654 100.0%	729 100.0%	+11.4%
売上総利益 (売上比)	311 47.6%	370 50.8%	+18.9% +3.2p
販管費 (売上比)	225 34.5%	246 33.8%	+9.2% ▲0.7p
事業利益 (売上比)	86 13.1%	124 17.0%	+44.3% +3.9p
その他収益・費用 (売上比)	▲0 -	▲0 -	-
営業利益 (売上比)	85 13.1%	123 17.0%	+44.4% +3.9p

※2020年8月期よりIFRS16号を適用したことによる影響はほとんどありません。

14

次に、ジーユー事業ですが、売上収益は729億円、前年同期比11.4%増、営業利益は123億円、同44.4%増と計画通り、大幅な増収増益となりました。

第1四半期は気温が高く推移したものの、薄手のアウターや、ニットをTVCMのキャンペーンで打ち出したことが奏功し、既存店売上高は増収となりました。粗利益率が前年同期比3.2ポイントと大きく改善し、販管費比率も同0.7ポイント改善した結果、営業利益は大幅な増益となりました。

## 【ジーユー事業】第1四半期 実績

- ・TVCMで「無敵カーデ」、「無敵ニット」と題し、カーディガンやニットを打ち出し、トレンドのケーブルデザインのカーディガンやニットチュニックといったデザインニットの販売が好調
- ・好調な商品は、期中に追加生産を行うことで、売上を大きく伸ばした
- ・スウェット、オーバーサイズシャツ、シャツジャケット、ポアジャケットなどの薄手のアウターも全体の売上をけん引
- ・素材の集約、早期発注により原価率が低下、値引率が改善し、粗利益率が大幅に改善
- ・販管費比率も、店舗のオペレーションの効率化による人件費比率の改善、広告宣伝費比率の低下により改善



「無敵カーデ」キャンペーン



「無敵ニット」キャンペーン

第1四半期は、TVCMで「無敵カーデ」、「無敵ニット」と題し、カーディガンやニットを打ち出したことで、トレンドのケーブルデザインのカーディガンやニットチュニックといったデザインニットの販売が好調でした。

これらの好調な商品は、期中に追加生産を行ったことで、さらに売上を大きく伸ばすことができました。

これに加え、スウェット、オーバーサイズシャツ、シャツジャケット、ポアジャケットなどの薄手のアウターも全体の売上をけん引しました。

引き続き、素材の集約、早期発注を行ったことで原価率が低下したことに加え、販売好調により、値引率が改善し、粗利益率は前年同期比3.2ポイントと、大幅に改善しました。

販管費比率も、店舗のオペレーションの効率化による人件費比率の改善や、広告宣伝費比率の低下により、同0.7ポイント改善しました。

## 減収減益、営業利益は計画を若干下回る

### 【セオリー事業】減収減益

- ・世界的に気温が高く推移したことで、日本、米国市場でアウターやセーターなどの冬物商品の販売に苦戦
- ・不振商品を早期に在庫処分したことで、粗利益率は低下したが、在庫は適正水準を維持
- ・日本では、プレスルームを移転したことにより、経費が一時的に増加

### 【プラステ事業】減収減益

- ・カットソー、カーディガン、シャツ、ブラウスなどの秋物商品は好調だった一方で、アウターやボトムスなどの防寒衣料の販売に苦戦

### 【コントワー・デ・コトニエ事業】前年並みの赤字

単位:億円

		2019年8月期	2020年8月期	
		第1四半期実績	第1四半期実績	前年同期比
グローバルブランド事業	売上収益	407	361	▲11.4%
	事業利益	28	19	▲32.5%
	(売上比)	6.9%	5.3%	▲1.6p
	その他収益・費用	▲0	▲0	-
	営業利益	27	18	▲31.5%
	(売上比)	6.7%	5.2%	▲1.5p

※2020年8月期よりIFRS16号を適用したことで、事業利益で2億円、営業利益で2億円の押し上げ

16

グローバルブランド事業の売上収益は361億円、前年同期比11.4%減、営業利益は18億円、同31.5%減と、減収減益となりました。

セオリー事業とプラステ事業の業績が計画を下回ったため、グローバルブランド事業の営業利益は計画を若干下回る結果となりました。

事業別では、セオリー事業は減収減益となりました。

世界的に気温が高く推移したことで、日本、米国市場でアウターやセーターなどの冬物商品の販売に苦戦しました。

不振商品を早期に在庫処分したことで、粗利益率は低下しましたが、在庫は適正水準を維持することが出来ております。

また、日本では、プレスルームを移転したことにより、経費が一時的に増加しています。

プラステ事業は、減収減益となりました。

カットソー、カーディガン、シャツ、ブラウスなどの秋物商品は好調だった一方で、アウターやボトムスなどの防寒衣料の販売に苦戦し、減益となりました。

コントワー・デ・コトニエ事業は前年並みの赤字となりました。

単位: 億円

	2018年11月末	2019年8月末	2019年11月末	前年同期末比
資産合計	20,317	20,105	25,282	+4,965
流動資産	16,920	16,381	17,760	+839
非流動資産	3,396	3,723	7,522	+4,125
負債合計	10,504	10,270	14,940	+4,435
資本合計	9,812	9,835	10,342	+529

※2020年8月期よりIFRS16号を適用したことにより、2019年11月末の資産合計は、使用权資産（IFRS16号の導入により新たに設けられた勘定科目で、リースを使用する権利の価値を見積もったもの）3,898億円を含んでおります。

次に、2019年11月末のバランスシートをご説明いたします。

資産合計は2兆5,282億円と、前年同期末比4,965億円増加、  
負債合計は1兆4,940億円と、同4,435億円増加、  
資本合計は1兆342億円と、同529億円増加いたしました。

なお、今期よりIFRS16号を適用したことにより、2019年11月末の資産合計は  
使用权資産3,898億円を含んでおります。

詳細については、次のスライドでご説明いたします。

## 【連結】B/Sのポイント(前年同期末比)

### 流動資産の増加+839億円(1兆6,920億円⇒1兆7,760億円)

- ・現金及び現金同等物の増加: +1,359億円(9,790億円⇒1兆1,150億円)  
ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュ・フローが増加
- ・棚卸資産の減少: ▲282億円(4,528億円⇒4,246億円)  
グループ全体で在庫処分を早期に実施したこと、発注進捗管理を強化  
【国内UQ】▲259億円【海外UQ】±0億円【GU】+22億円【グローバルブランド】▲47億円
- ・デリバティブ金融資産の減少: ▲393億円(563億円⇒169億円)  
保有する為替予約の平均レート、11月末の為替レートがともに円高となったものの、その乖離幅が縮小したことで、デリバティブ金融資産は全体で131億円の減少

### 非流動資産の増加+4,125億円(3,396億円⇒7,522億円)

- ・使用権資産の増加: +3,898億円(―⇒3,898億円)  
IFRS16号の適用による
- ・デリバティブ金融資産の増加: +261億円(―⇒261億円)

### 負債の増加+4,435億円(1兆504億円⇒1兆4,940億円)

- ・リース負債の増加: +4,435億円(―⇒4,435億円)  
IFRS16号の適用により、リース負債(短期、長期)を計上

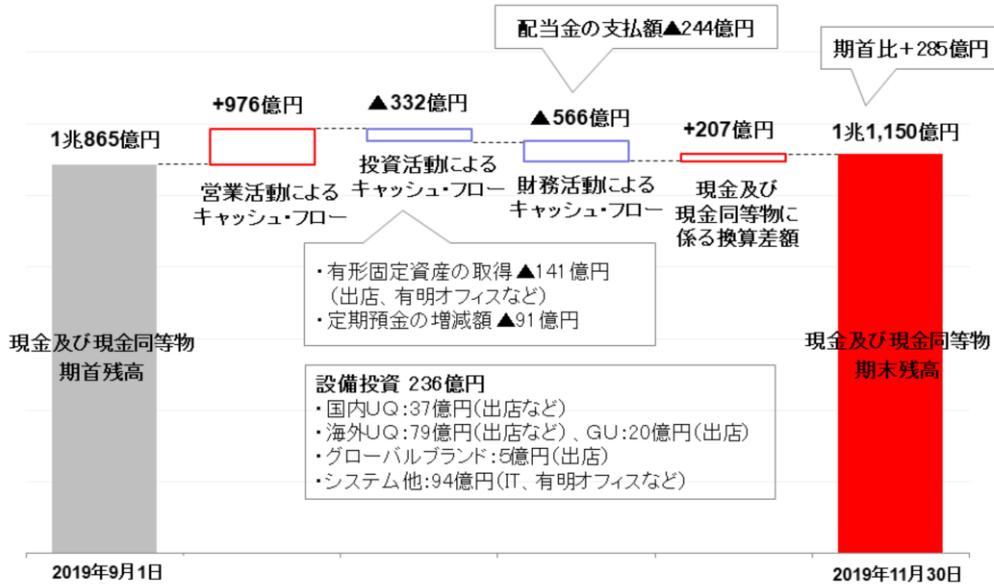
資産の大半を占める流動資産が前年同期末比839億円増加した主な要因をご説明いたします。

まず、現金及び現金同等物は、同1,359億円増加いたしました。これは、ユニクロ事業をはじめとする各事業の営業キャッシュ・フローが増加したことによります。

次に、棚卸資産ですが、同282億円減少しております。これは、グループ全体で在庫処分を早期に実施したこと、発注進捗管理を強化したことにより、主に国内ユニクロ事業で259億円減少したためです。

非流動資産は、同4,125億円増加いたしました。これは、IFRS16号を今期より適用したことで、使用権資産を3,898億円計上したためです。また、負債は4,435億円増加しておりますが、これもIFRS16号の影響により、リース負債を計上したことによります。

# 【連結】第1四半期 キャッシュ・フロー



※IFRS16号の適用により、営業活動によるキャッシュ・フローが約300億円増加、財務活動によるキャッシュ・フローが約300億円減少。この会計基準の変更による最終的なキャッシュ・フローへの影響はありません。

次に、2020年8月期 第1四半期のキャッシュ・フローですが、  
 営業活動によるキャッシュ・フローが976億円の収入、  
 投資活動によるキャッシュ・フローが332億円の支出、  
 財務活動によるキャッシュ・フローが566億円の支出となった結果、  
 2019年11月末における現金及び現金同等物の期末残高は1兆1,150億円となりました。

なお、IFRS16号の適用により、営業活動によるキャッシュ・フローが約300億円増加した一方で、財務活動によるキャッシュ・フローが約300億円減少しております。  
 この会計基準の変更による最終的なキャッシュ・フローへの影響はありません。

## 減額修正

- ・売上収益は600億円減額修正、営業利益は300億円減額修正、親会社の所有者に帰属する当期利益は100億円の減額修正
- ・1Q、12月の下振れ分を反映したことに加え、足元の韓国、香港の状況を踏まえ、海外ユニクロ事業の下期の期初予想を減額修正
- ・国内ユニクロ事業、ジーユー事業、グローバルブランド事業の下期は、変更なし

単位：億円

	2019年8月期 通期実績	2020年8月期 直近予想 (10/10時点)		2020年8月期 通期予想 (1/9時点)		2020年8月期 1Q3ヶ月 実績
			前期比		前期比	
売上収益 (売上比)	22,905 100.0%	24,000 100.0%	+4.8%	23,400 100.0%	+2.2%	6,234 100.0%
事業利益 (売上比)	2,651 11.6%	2,800 11.7%	+5.6% +0.1p	2,500 10.7%	▲5.7% ▲0.9p	888 14.2%
その他収益・費用	▲75	▲50	-	▲50	-	28
営業利益 (売上比)	2,576 11.2%	2,750 11.5%	+6.7% +0.3p	2,450 10.5%	▲4.9% ▲0.7p	916 14.7%
金融収益・費用	▲51	0	-	0	-	103
税引前利益 (売上比)	2,524 11.0%	2,750 11.9%	+8.9% +0.9p	2,450 10.5%	▲2.9% ▲0.5p	1,020 16.4%
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (売上比)	1,625 7.1%	1,750 7.7%	+7.6% +0.6p	1,650 7.1%	+1.5%	709 11.4%

※2020年8月期よりIFRS 6号を適用したことで、事業利益で約1.5%、営業利益で約2%の押し上げを見込む

20

次に、2020年8月期の通期業績予想について、ご説明いたします。

通期の売上収益は、期初予想に対して600億円減額修正し、2兆3,400億円、営業利益は300億円減額修正し、2,450億円といたしました。この結果、親会社の所有者に帰属する当期利益は1,650億円と、期初予想より100億円の減額修正となっております。

これは、第1四半期および12月の下振れ分を反映したことに加え、足元の韓国、香港の状況を織り込み、海外ユニクロ事業の下期の期初予想を減額修正したためです。

国内ユニクロ事業、ジーユー事業、グローバルブランド事業の下期は、期初予想から変更していません。

その他収益・費用は、期初予想どおり、50億円のマイナスを予想しておりますが、これは主に、海外ユニクロ事業を中心にスクラップ&ビルドに伴う除却損・閉店損を見込んでいます。

なお、第1四半期にその他収益・費用および、金融収益・費用にそれぞれ為替差益を計上しておりますが、為替動向が不透明なことから、為替の前提は期初の為替レート1ドル106円とし、為替差益は見込んでおりません。

## 海外ユニクロ事業:通期は増収減益を予想

- ・海外ユニクロ事業は、上期は増収、大幅な減益。下期は増収減益となる見込み
- ・グレーターチャイナは、香港が大幅減益となること、元安による業績の押し下げ影響を約8%想定していることから、通期で若干の減益となることを予想
  - ✓ ただし、為替の影響を除くと、増収増益を見込む
  - ✓ 中国大陸、台湾は引き続き順調な業績を維持し、通期で増収増益となる見込み
- ・その他アジア・オセアニア地区は、好調な業績を維持。下期、通期ともに2桁の増収増益
- ・韓国は、通期で大幅な減収減益、赤字となる見込み
- ・欧州は、通期で増収増益。北米は通期で黒字化することを見込む

セグメント別 営業利益のトレンド(イメージ)



次に、セグメント別の通期の業績予想について、ご説明いたします。

まず、海外ユニクロ事業ですが、期初予想に対し下方修正したことから、上期は増収、大幅な減益、下期は増収減益となる見込みです。この結果、通期でも増収減益を予想しております。

グレーターチャイナは、香港が大幅減益となること、元安による業績の押し下げ影響を約8%想定していることから、通期で若干の減益となることを予想しています。ただし、為替の影響を除くと、増収増益を見込んでおります。中国大陸、台湾は引き続き順調な業績を維持し、通期で増収増益となる見込みです。

その他アジア・オセアニア地区は、好調な業績を維持し、下期、通期ともに2桁の増収増益となる見込みです。

韓国は、通期で大幅な減収減益、赤字となる見込みです。

欧州は、通期で増収増益、北米は通期で黒字化することを見込んでおります。

### 国内ユニクロ事業：通期は増収増益を見込む

- ・上期は減収も、粗利益率が改善することで、営業利益は増益を予想
- ・下期は、増収増益を見込む。粗利益率は、原価率の改善、値引率のコントロールにより若干改善する見込み。経費比率は、在庫の適正化による物流費比率の改善、RFIDやセルフレジ導入による店舗作業の効率化で人件費比率の改善を見込む

### ジーユー事業：増収増益を見込む

- ・上期は増収増益となる見込み
- ・下期も好調な販売が継続する見込みだが、昨年の下期は粗利益率が約8ポイント改善とハードルが高いことから、若干の増益にとどまる見込み
- ・通期では増収増益を見込む
- ・引き続きマストトレンドにフォーカスすると同時に、春夏から、若年層向けのラインを新たに展開することに加え、790円や990円の低価格商品のラインナップを拡大し、「ファッションと低価格」をより一層強化

### グローバルブランド事業：増収増益を見込む

- ・上期は減益の見込み。下期が増収増益となることで、通期では増収増益を見込む
- ・セオリー事業、プラステ事業は増収増益、コントワー・デ・コトニエ事業は、赤字幅が縮小

次に、国内ユニクロ事業ですが、上期は減収となるものの、粗利益率が改善することが見込まれるため、営業利益は増益を予想しております。

下期は、増収増益を見込んでおります。粗利益率は、原価率の改善、値引率のコントロールにより若干改善する見込みです。経費比率は、在庫の適正化による物流費比率の改善、RFIDやセルフレジ導入による店舗作業の効率化で人件費比率の改善を見込んでおります。この結果、通期では増収増益となる見込みです。

ジーユー事業は、上期は増収増益となる見込みです。下期も、好調な販売が継続する見込みですが、昨年の下期は粗利益率が約8ポイント改善するなどハードルが高いことから、若干の増益にとどまる見込みです。通期では増収増益を見込んでおります。

商品面では、引き続きマストトレンドにフォーカスすると同時に、春夏から若年層向けのラインを新たに展開することに加え、790円や990円の低価格商品のラインナップを拡大し、「ファッションと低価格」をより一層強化していきます。

グローバルブランド事業は、第1四半期が減益となったことから、上期でも減益となる見込みです。下期が増収増益となることで、通期では増収増益を見込んでおります。セオリー事業、プラステ事業は増収増益、コントワー・デ・コトニエ事業は、赤字幅が縮小する見込みです。

配当金につきましては、中間配当金250円、期末配当金250円、あわせて年間で500円と、期初から変更しておりません。

以上で私からの説明を終わります。ありがとうございました。

### 損益計算書

- ・地代家賃に代わり、減価償却費、支払利息をそれぞれ計上したことで、第1四半期は事業利益で約9億円、営業利益で約12億円の押し上げ

2020年8月期 1Q (従来基準での概算) 単位: 億円		2020年8月期 1Q (IFRS16号適用) 単位: 億円	
販管費	2,250	販管費	2,240
地代家賃	519	地代家賃	203
減価償却費	121	減価償却費	430
事業利益	878	事業利益	888
その他収益・費用	25	その他収益・費用	28
営業利益	903	営業利益	916
支払利息	10	支払利息	18
税引前四半期利益	1,015	税引前四半期利益	1,020

# <参考資料> 連結対象会社別出退店実績と予想

【単位:店舗】	19年8月期				2020年6月期(2019/9~2019/11)実績				2020年8月期(2019/9~2020/8)予想				
	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末	出店	退店	純増減	期末
ユニクロ事業合計	2,196	81	28	+53	2,249	195	61	+134	2,330				
国内ユニクロ事業:※	817	19	19	0	817	30	30	0	817				
百貨店	774	16	19	▲3	771	-	-	-	771				
大型店	230	10	5	+5	235	-	-	-	235				
標準店等	544	6	14	▲8	536	-	-	-	536				
FC	43	3	0	+3	46	-	-	-	46				
海外ユニクロ事業:	1,379	62	9	+53	1,432	165	31	+134	1,513				
中国	711	28	1	+27	738				738				
香港	29	1	0	+1	30	100	-	-	30				
台湾	67	2	1	+1	68				68				
韓国	188	4	6	▲2	186	6	-	-	186				
シンガポール	28	0	0	0	28				28				
マレーシア	49	2	0	+2	51				51				
タイ	50	1	0	+1	51				51				
フィリピン	58	3	0	+3	61	40	-	-	61				
インドネシア	26	6	0	+6	32				32				
オーストラリア	20	1	0	+1	21				21				
ベトナム	0	0	0	0	0				0				
インド	0	2	0	+2	2				2				
米国	51	2	1	+1	52				52				
カナダ	11	1	0	+1	12	4	-	-	12				
英国	13	2	0	+2	15				15				
フランス	24	0	0	0	24				24				
ロシア	37	4	0	+4	41				41				
ドイツ	9	0	0	0	9				9				
ベルギー	3	0	0	0	3	15	-	-	3				
スペイン	2	2	0	+2	4				4				
スウェーデン	1	0	0	0	1				1				
オランダ	1	0	0	0	1				1				
デンマーク	1	0	0	0	1				1				
イタリア	0	1	0	+1	1				1				
ジーユー事業	421	19	2	+17	438	37	15	+22	443				
グローバルブランド事業合計	972	13	6	+7	979	39	48	▲9	963				
セオリー事業※	451	7	0	+7	458	-	-	-	458				
ブラステ事業※	101	5	0	+5	106	-	-	-	106				
コストワー・デ・コトニエ事業※	296	1	5	▲4	292	-	-	-	292				
プリンセス・タム・タム事業※	124	0	1	▲1	123	-	-	-	123				
総合計	3,589	113	36	+77	3,666	271	124	+147	3,736				

注:ミナナ事業、グラミンユニクロ事業の店舗は含まない ※フランチャイズ店を含む

## ＜参考資料＞為替レート

### 連結決算取込 為替レート

単位: 円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2019年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)実績	112.6	130.0	145.7	16.3	10.0
2020年8月期 第1四半期(3ヶ月平均)実績	107.8	119.0	134.3	15.2	9.1
2019年8月期 通期(12ヶ月平均)実績	110.9	125.9	142.3	16.2	9.7
2020年8月期 通期(12ヶ月平均)予想	109.0	123.0	143.0	14.8	9.6

### バランスシート適用 為替レート

単位: 円

	1USD	1EUR	1GBP	1RMB	100KRW
2019年8月期 第1四半期末為替レート 実績	113.5	129.2	145.0	16.4	10.1
2020年8月期 第1四半期末為替レート 実績	109.6	120.6	141.5	15.6	9.3
2019年8月期 期末為替レート 実績	106.4	117.6	129.6	14.8	8.8
2020年8月期 期末為替レート 予想	106.4	117.6	129.6	14.8	8.8

### 設備投資(ファイナンス・リース含む)・減価償却費

単位: 億円

	設備投資						減価償却費
	国内 ユニクロ	海外 ユニクロ	ジーユー	グローバル ブランド	システム他	合計	
2019年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	50	94	24	9	63	243	119
2020年8月期 第1四半期実績(3ヶ月累計)	37	79	20	5	94	236	430
2019年8月期 通期実績(12ヶ月累計)	136	316	90	27	280	852	484
2020年8月期 通期予想(12ヶ月累計)	78	351	74	35	463	1,001	1,637

※2020年8月よりFRS 6号を適用したことで、減価償却費は通期で約1,100億円増加することを見込んでおります。  
 なお、この約1,100億円は使用権資産に係る減価償却費として計上されております。